

京都大学 大学院案内

GRADUATE SCHOOLS of KYOTO UNIVERSITY

2015

地球社会の調和ある共存を目指して



京都大学において 新しい出会いと発見を

京都大学は1897年の創立以来、高い倫理性に支えられた「自由の学風」のもと自由闊達な対話を根幹としながら、京都の地において自主自律の精神を涵養し、日本と世界の高等教育を先導し、先端的・独創的学術研究を推進してまいりました。2014年現在で117年の歴史を積み重ねてきています。また、京都大学は、日本の学制制度発足以来の大改革とされる国立大学法人化制度の下、2004年4月から国立大学法人京都大学となり、新たな法人化制度と環境変化の中で大きな変革を続けています。

激動の変革期といえる今、自由の学風を継承発展させつつ、多様な課題の解決に果敢に挑戦し、地球社会の調和ある共存に向けて京都大学らしく貢献することについて以前にも増して大きな期待が寄せられています。

教育基本法第七条第一項に「大学は、学術の中心として、高い教養と専門知識を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することによって、社会の発展に寄与するものとする」と明記されています。この基本法において、第一の使命の教育は「知の伝承」を通して広く人材を育成すること、第二の使命の研究は、最先端の研究活動を行い「知の創造」、「知的体系の構築」のため深く真理を探究するということです。また、大学における創造的な研究活動は、その過程に学生のみなさんを参加させ、人材を育成することが含まれています。このように、大学における教育と研究は車の両輪をなすものであり、不即不離でなければなりません。第三の使命の社会貢献にはいろいろな形態がありますが、知の社会発信、産官学連携、政策提言、附属病院の高度医療など多様な展開をもたらすものです。

このように多様性を特徴とする大学の使命を果たすべく、時流に流されることなく、「凜」とした気概を持ち、学術の府として、その存在を国内外に示し、同時に京都という誇りと文化に満ちた環境下で、社会の各分野において指導的な立場に立ち、重要な働きを担う教養人、国際人、世界的研究者を輩出し続けることができるよう、京都大学は日々発展していきます。

大学院教育において、文部科学省は21世紀国際社会における総合課題の解決を担いうるグローバル・リーダーを養成すべく、「博士課程教育リーディングプログラム」の公募を2011年度より開始し、本学はこれまでにオールラウンド型1件（京都大学大学院思修館）、複合領域型3件（生命健康分野、安全安心分野、情報分野各1件）、オンライン型1件が採択され、広く産官学にわたって活躍できるリーダー養成教育を開始しました。

さらに、全学の支援のもと、「生存知の構造化と公共化」を創発することにより、「人類と地球社会の生存」に関わる社会課題を克服し、活力ある社会の構築を先導するグローバル・リーダーの養成拠点として大学院総合生存学館（思修館）を2013年4月1日に設置しました。

京都大学大学院への入学を目指すみなさんには、このような大学において、様々な活動に参加していただくことになります。みなさんにとっても、京都、日本、そして全世界のフィールドを含む地球規模の諸活動が京都大学のキャンパスの一部となることでしょう。そのため、学生としての生活基盤をしっかりと固め、心身を鍛えながら、新たな研究の未来を開拓していただきたいと思います。

京都1200年の重層文化都市の中に息づく京都大学は、三方を山に囲まれた盆地のうえに主要な3キャンパスが所在しています。美しい四季の変化、豊富な地下水の蓄えは、水の文化とも称せられる古都の文化行事とともに一層の彩りを添えています。このような地に日本全国、世界各国から人々が集まり、新しい文化を育んでいます。そして、京都大学は、地域との連携のもとにその文化を世界に発信しています。まさに、彩（あや）なす、綾なす、文なす学問の府、京都大学と表現することができるでしょう。

学部学生13,500名、大学院生9,300名、留学生は1,700名を数え、2,700名に及ぶ個性豊かな教員が、みなさんとの新しい出会いを待っています。

学問と研究に大いなる希望をもち、京都大学大学院を目指されるみなさんの入学をお待ちしています。



京都大学の 基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多様な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

研究

1. 京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
2. 京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

教育

3. 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
4. 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

社会との関係

5. 京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
6. 京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

運営

7. 京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。
8. 京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。

京都大学入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

大学院課程

京都大学は、創立以来の「自由の学風」のもと、世界最高水準の研究を推進し、優れた研究者、ならびに高度専門職業人の養成に努めてきました。大学院の各研究科は、このような学風と学術の伝統を踏まえて、さらに努力を重ね、世界に誇る独創的な学術研究の推進と、社会の各方面で指導的な役割を果たす人材の養成に取り組むと考えています。そのために、日本国内はもとより世界各地から、優れた資質を有し学問に対する意欲にあふれた人を広く受け入れたいと願っています。

大学院の各研究科では、独自に教育と研究の理念・目的を定めて、それぞれの分野で積極的な活動をおこなっています。その高度で独創的な研究の成果は、わが国だけでなく国際的にも注目されています。そうした研究は共通して、京都大学らしい多様な世界観・自然観・人間観に基づく自由な研究であると同時に、学問の基礎を大切に研究、ないし基礎そのものを極める研究であります。京都大学は、このような大学の学風や伝統を理解し、自ら課題を設定して探求するための十分な基礎学力を備えており、専門分野で積極的な研究をおこなう意欲をもった人の入学を期待しています。

専門職大学院課程

京都大学に設置された専門職大学院は、本学独自の学風と伝統を踏まえながらも、専門職大学院が目的とする、高度で専門的な知識・能力を備えた専門職業人の養成を使命として、積極的に教育と研究を進めています。専門職大学院は、それぞれの理念や教育方針のもとで、独自のカリキュラムを整え、理論と実務をつなぐ実践的な教育をおこなっており、その入学者選抜にあたっては、優れた資質を有する人を幅広く受け入れたいと願っています。学士課程の卒業生だけでなく、すでに専門職を経験しさらに高い専門的能力を得たいと願う社会人も、積極的に受け入れたいと考えています。

Index

総長メッセージ

- P01 ▶ 基本理念、アドミッション・ポリシー
- P02 ▶ 沿革・組織等
- P05 ▶ 京都大学発トピックス
- P06 ▶ 世界をリードする教育研究拠点へ

支援について

- P16 ▶ 教育研究支援
- P18 ▶ 経済生活支援
- P22 ▶ 国際交流支援
- P26 ▶ 就職支援

研究科の紹介

- P28 ▶ 理事メッセージ
- P29 ▶ 京都大学大学院の特色
- P30 ▶ 文学研究科
- P32 ▶ 教育学研究科
- P34 ▶ 法学研究科
- P36 ▶ 法科大学院（法曹養成専攻）
- P38 ▶ 経済学研究科
- P40 ▶ 理学研究科
- P44 ▶ 医学研究科
- P48 ▶ 薬学研究科
- P50 ▶ 工学研究科
- P54 ▶ 農学研究科
- P58 ▶ 人間・環境学研究科
- P60 ▶ エネルギー科学研究科
- P62 ▶ アジア・アフリカ地域研究研究科
- P64 ▶ 情報学研究科
- P66 ▶ 生命科学研究科
- P68 ▶ 総合生存学館（思修館）
- P70 ▶ 地球環境学堂・学舎
- P72 ▶ 公共政策大学院
- P74 ▶ 経営管理大学院

研究所・教育研究施設

- P76 ▶ 研究所について
- P76 ▶ 化学研究所
- P77 ▶ 人文科学研究所
- P77 ▶ 再生医科学研究所
- P78 ▶ エネルギー理工学研究所
- P78 ▶ 生存圏研究所
- P79 ▶ 防災研究所
- P79 ▶ 基礎物理学研究所
- P80 ▶ ウイルス研究所
- P80 ▶ 経済研究所
- P81 ▶ 数理解析研究所
- P81 ▶ 原子炉実験所
- P82 ▶ 霊長類研究所
- P82 ▶ 東南アジア研究所
- P83 ▶ iPS細胞研究所
- P83 ▶ 教育研究施設等

入学試験情報

- P88 ▶ 入学試験情報
- P94 ▶ キャンパスMAP

京都大学は 1897年(明治30年)創設

現在 18 研究科、10 学部、14 附置研究所および多くの教育研究施設を有し、教員 2,700 名、大学院生 9,300 名、学部学生 13,500 名が学び、研究を行っている総合大学です。

1897年
[明治30年]

● 京都帝国大学創設



1947年
[昭和22年]

● 京都帝国大学を京都大学と改称

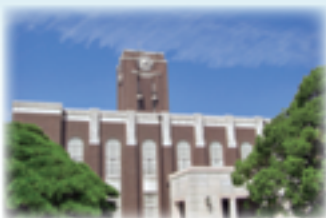
1949年
[昭和24年]

● 新制京都大学設置



2004年
[平成16年]

● 国立大学法人京都大学設立



脈々と受け継がれる 伝統と英知…



湯川秀樹 博士
(1949 年)



朝永振一郎 博士
(1965 年)



福井謙一 博士
(1981 年)



利根川進 博士
(1987 年)



野依良治 博士
(2001 年)



益川敏英 博士
(2008 年)



小林誠 博士
(2008 年)



山中伸弥 博士
(2012 年)

写真は京都大学にゆかりのあるノーベル賞受賞者、カッコ内は受賞年

キャンパス群



吉田キャンパス



桂キャンパス



宇治キャンパス

大学位置図

平安建都以来 1200 年の歴史を奏でる古都—京都は人口 140 万人の文化・学術都市です。



世界的な教育・研究総合大学を目指す 3つのキャンパス群

京都大学は京都盆地を取り囲むように位置する3つのキャンパス群を中心に教育・研究活動を行っています。

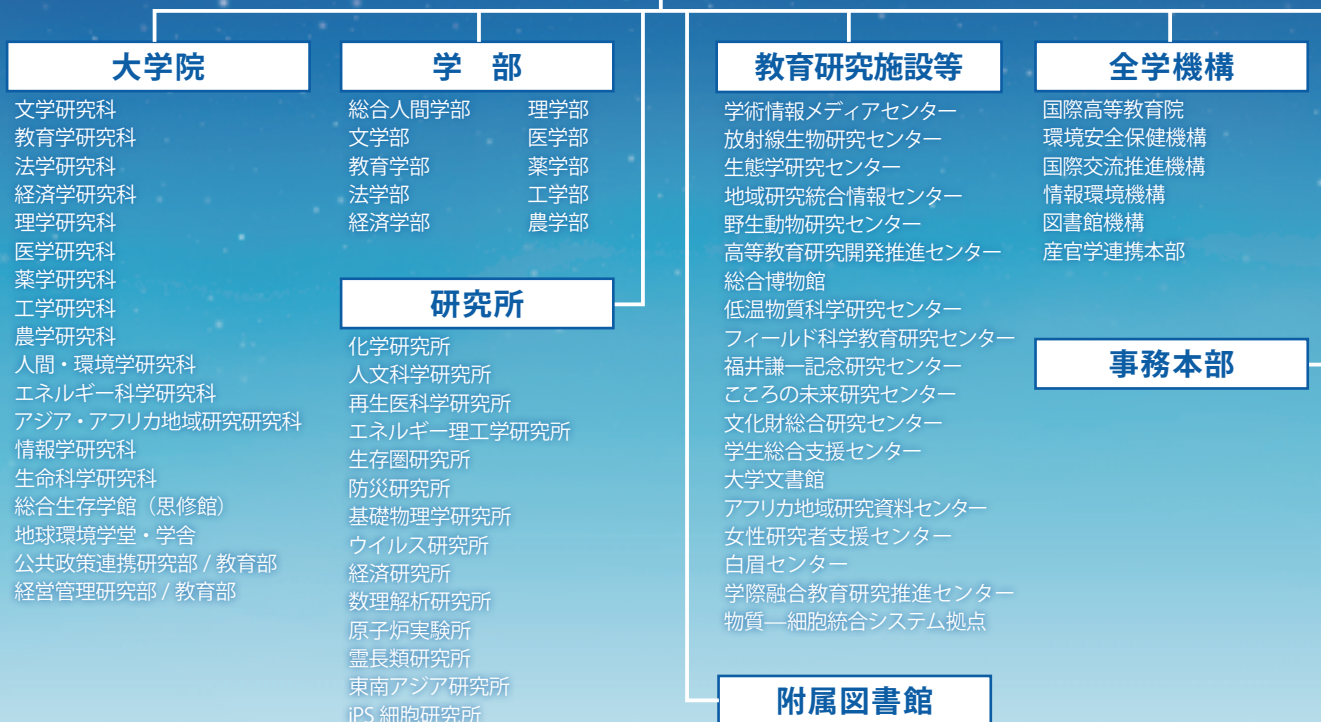
吉田キャンパスは1897(明治30)年に京都帝国大学として創立以来、京都大学の中核として今日に至り、教育・研究の拠点となっています。

宇治キャンパスは、自然科学・エネルギー系の研究所からなる最先端テクノロジー開発の拠点キャンパスです。

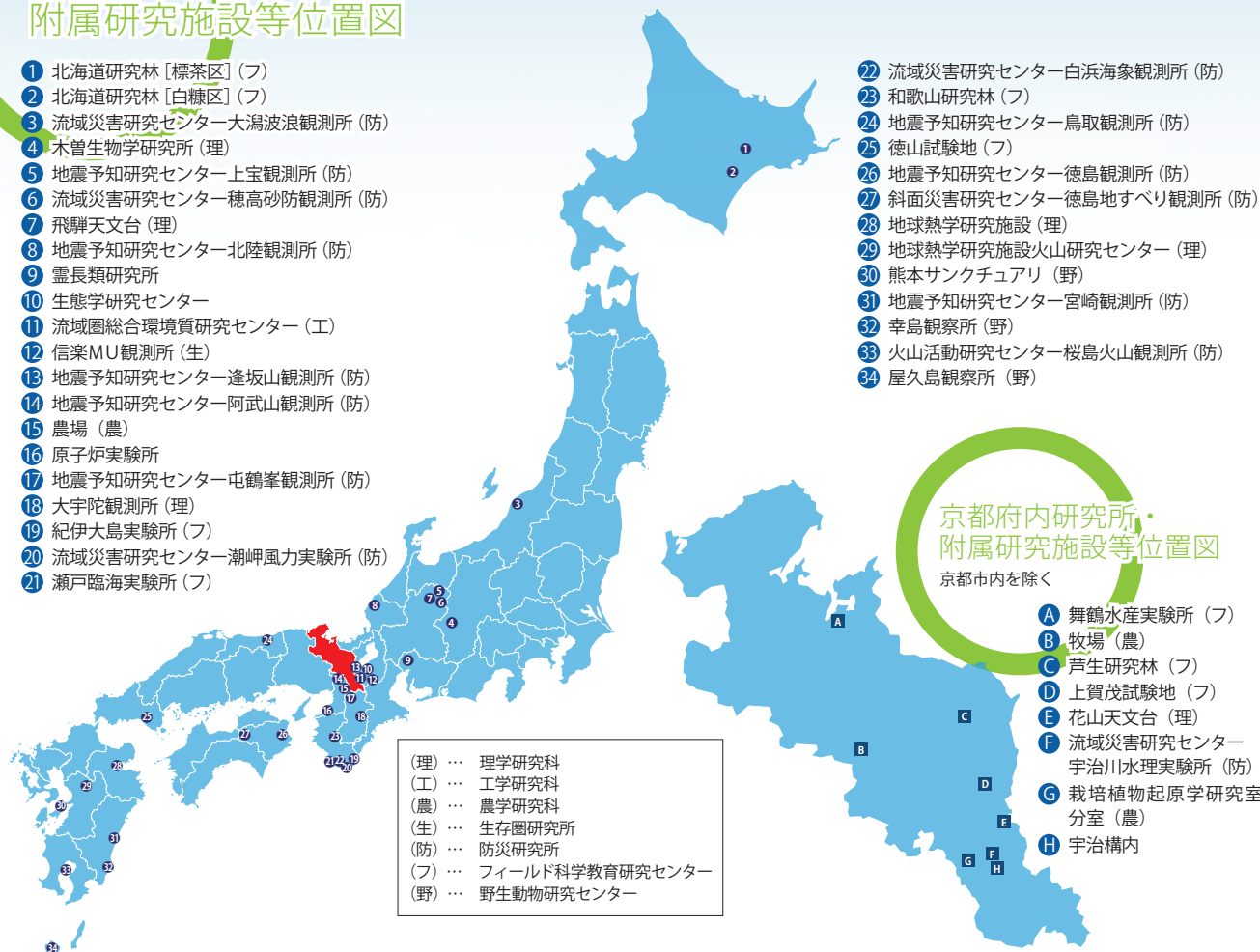
2003(平成15)年に開設された桂キャンパスは、工学・情報学系の大学院および産学官連携を推進する部門等で構成され、基盤科学技術のイノベーションとそれを推進するための中軸キャンパスとして位置づけられています。

組織図

京 都 大 学



研究所・附属研究施設等位置図



海外交流拠点

(H25.5.1 現在)

(経) … 経済学研究科
(工) … 工学研究科
(理) … 理学研究科
(生) … 生存圏研究所
(天) … 理学研究科附属天文台
(農) … 農学研究科
(ア) … アジア・アフリカ地域研究研究科
(東) … 東南アジア研究科
(地) … 地域環境学

(工研) … エネルギー理工学研究所
(防) … 防災研究所
(霊) … 霊長類研究所
(産) … 産官学連携本部
(態) … 生態学研究センター
(統) … 地域研究統合情報センター
(野) … 野生動物研究センター
(物) … 物質・細胞統合システム拠点
(国) … 国際交流推進機構



- ① 京都大学・人民大学共同経済研究センター(経)
 - ② 京都大学・清華大学環境技術共同研究・教育センター(工)
 - ③ GCOE京都大学・バンドン工科大学の共同研究および教育センター(工)
 - ④ 京都大学GCOEにおけるアジア工科大学キャンパス共同教育研究センター(工)
 - ⑤ 京都大学GCOE-国立シンガポール大学海事研究センター(CMS)交通ロジスティクス共同教育研究センター(工)
 - ⑥ 京都大学GCOE-マラヤ大学共同教育研究センター(工)
 - ⑦ チュラロンコン大学サテライト・オフィス(理)
 - ⑧ アフリカ熱帯林生物多様性研究拠点(理)
 - ⑨ バンドン工科大学サテライト・オフィス(理)
 - ⑩ CHAIN ベルー拠点(天)
 - ⑪ 農学研究科海外研究拠点コンケンオフィス(農)
 - ⑫ キナバル山公園拠点(農)
 - ⑬ デラマコット保護区拠点(農)
 - ⑭ エチオピア・フィールド・ステーション(ア)
 - ⑮ カメルーン・フィールド・ステーション(ア)
 - ⑯ ナイロビ・フィールド・ステーション(ア)
 - ⑰ ザンビア・フィールド・ステーション(ア)
 - ⑱ タンザニア・フィールド・ステーション(ア)
 - ⑲ ナミビア・フィールド・ステーション(ア)
 - ⑳ ニジェール・フィールド・ステーション(ア)
 - ㉑ ラオス・フィールド・ステーション(ア)(東)
- 中国
中国
インドネシア
タイ
シンガポール
マレーシア
タイ
ガボン
インドネシア
ペルー
タイ
マレーシア
マレーシア
エチオピア
カメルーン
ケニア
ザンビア
タンザニア
ナミビア
ニジェール
ラオス

- ㉒ マカッサル・フィールド・ステーション(ア)(東)
- ㉓ カンボジア・フィールド・ステーション(ア)(東)
- ㉔ プカンバル・フィールド・ステーション(ア)(東)
- ㉕ ミャンマー・フィールド・ステーション(ア)(東)
- ㉖ 地球環境学教育研究拠点(地)
- ㉗ ハノイオフィス(地)(工)
- ㉘ フェオフィス(地)
- ㉙ 深圳オフィス(地)
- ㉚ 環境調和型エネルギー交流拠点(工研)
- ㉛ 赤道大気レーダー(生)
- ㉜ インドネシアサテライトオフィス(生)
- ㉝ スマトラアカシア林研究拠点(生)
- ㉞ シアトル・サテライト(防)
- ㉟ ルオー保護区ボノボ研究プロジェクト(霊)
- ㊱ ボッソウ環境研究所(霊)
- ㊲ カリンス森林調査プロジェクト(霊)
- ㊳ オランウータン野生復帰プロジェクト(霊)
- ㊴ バンコク連絡事務所(東)
- ㊵ ジャカルタ連絡事務所(東)
- ㊶ クチン・フィールド・ステーション(東)
- ㊷ 清華大学科技园内京都大学リエゾンオフィス(産)
- ㊸ 産官学連携欧州事務所(産)
- ㊹ 熱帯雨林生物多様性研究拠点(態)
- ㊺ リマ拠点(統)
- ㊻ 京都大学アフリカ類人猿調査拠点(野)
- ㊼ アフリカ人類学・生物学研究フィールドセンター(野)
- ㊽ クアラスンガイダナム調査拠点(野)
- ㊾ iCeMS Satellite at NCBS-inStem(物)
- ㊿ 京都大学・ベトナム国家大学ハノイ共同事務所(国)

インドネシア
カンボジア
インドネシア
ミャンマー
ベトナム
ベトナム
中国
タイ
インドネシア
インドネシア
インドネシア
アメリカ
コンゴ
ギニア
ウガンダ
マレーシア
タイ
インドネシア
マレーシア
中国
英国
マレーシア
ペルー
タンザニア
タンザニア
マレーシア
インド
ベトナム

京都大学ホームページ

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学教育研究活動データベース

京都大学の教員を知るならこちら！
— 京都大学は個性豊かな研究者の宝庫 —

京都大学では個性豊かな優れた研究者が数多く教育・研究に携わっています。

「京都大学教育研究活動データベース」は、本学の研究者の専門分野、研究業績など教育研究活動に関する情報を広く社会に公開することを目的とした検索システムです。

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/view/>

京都大学学術情報リポジトリ (KURENAI)

「京都大学学術情報リポジトリ」は京都大学内で生産された電子的な知的生産物(学術雑誌掲載論文、学位論文、プレプリント、科学研究費報告書、COE プログラム研究成果、講義資料・教材、学会発表資料などの学術情報)を永続的に蓄積し、誰もが無料で読めるように Web 上で公開するものです。

ノーベル物理学賞を受賞された益川敏英京都大学名誉教授の受賞論文や山中伸弥教授のノーベル生理学・医学賞受賞のもととなった論文も公開されています。

<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/>

京都大学オープンコースウェア (OCW)

京都大学 OCW は、学内で実際に利用している講義教材をインターネットで公開するプロジェクトです。学内の学生、教職員、他大学の学生、関連学会の研究者、京都大学を志願する高校生、さらなる学習を志す社会人など、あらゆる方々に京都大学の講義内容を知っていただき、門戸を広げることを目的としています。また、世界へ向けて、京都大学のビジビリティを高め、日本の文化・伝統を発信するために日本語で積極的にアピールしていきます。

<http://ocw.kyoto-u.ac.jp>

TOPICS 2013～

京都大学発 トピックス 2013～

Topics 1

日本で初めて edX に参加

(2013 年 5 月)

京都大学は、米ハーバード大学とマサチューセッツ工科大学（MIT）が 2012 年に設立した非営利的教育機関「edX」（本部：米マサチューセッツ州ケンブリッジ）に、日本で初めて参入しました。

edX は世界トップレベルの大学の講義をインターネットで無料配信するだけでなく、オープンソースの教育プラットフォームの開発と大学間ネットワークの構築を通じて、オンラインとキャンパス双方において「学生たちがどのように学ぶか」を研究し、教育改善に取り組むことが特徴です。今回、京都大学を含む 15 の大学が新たに加わり、edX に参画する機関数は 27 となりました。これまでの edX 登録者数は、世界で 90 万人以上です。

京都大学が edX を通じて提供する講義シリーズは「KyotoUx」と名付けられ、その第一弾として上杉志成 iCeMS 副拠点長・化学研究所教授による「生命の化学：Chemistry of Life」が選ばれました。2013 年夏に受講募集を始め、2014 年春から配信を開始する予定です。

Topics 2

アウン・サン・スー・チー ミャンマー国民 民主連盟議長の講演会を開催しました。

(2013 年 4 月)

アウン・サン・スー・チー ミャンマー国民民主連盟議長の講演会を開催しました。スー・チー議長の来日は、1985～86 年に東南アジア研究センター（現 東南アジア研究所）に在籍していたとき以来、27 年ぶりのことです。

スー・チー議長は 1991 年に「民主主義と人権回復のための非暴力闘争」によってノーベル平和賞を受賞されたほか、合衆国議会名誉黄金勲章（2008）なども授与されています。現在は 2011 年に発足した現政権下で下院議員として政権との和解と民主化に力を発揮されています。

松本総長は、特に優れた業績により国内外で高い評価を受けていることを理由に、スー・チー議長に対し本学第 1 号となる名誉フェローの称号を授与しました。その後、「Socio-Political Change in Recent Burma and Women's Participation in It」というテーマで講演会を開催しました。

講演会に引き続いて開催したスー・チー議長と学生との質疑応答セッションでは、学生からの熱心な質問に対し真剣かつ時には笑顔で親身に答えられていました。



Topics 3

京都大学、大阪大学および神戸大学における 相互の協力に関する協定を締結しました。

(2013 年 12 月)

京都大学（松本紘 総長）、大阪大学（平野俊夫 総長）および神戸大学（福田秀樹 学長）は、教育、学術研究、社会への貢献を狙いとして、積極的かつ効果的な相互間での協力関係を構築することで合意し、2013 年 12 月 21 日付けで「相互の協力に関する協定書」を締結しました。

今後、三大学は、三大学の理念、特色、立地環境等を活かし、自主自立を尊重しつつ、教育、学術研究、社会貢献等の機能をもって一層協力し、世界トップクラスの研究大学としての各大学の機能の強化とその成果（アウトプット）をもって国際社会に貢献するという目的を達成するために、大学運営における教育、学術研究、社会貢献等のあらゆる分野において、個々の課題における協力の実現可能性について必要に応じて協議・検討し、実現可能な事案から実施していきます。



Topics 4

白眉プロジェクト 25 年度公募の採用者が 内定しました

(2013 年 9 月)

京都大学では、平成 21 年度から京都大学次世代研究者育成支援事業「白眉プロジェクト」を立ち上げ、優秀な若手研究者を年俸制特定教員（准教授、助教）として採用し、自由な研究環境を与え研究に専念させることにより、次世代を担う先見的な研究者を育成するための取り組みを進めてきました。平成 25 年度については、9 月 27 日（金曜日）に開催した白眉センター運営委員会（第 13 回）において審議した結果、白眉センターに採用する者 20 名を内定しました。

Topics 5

第 4 回（平成 25 年度）日本学術 振興会育志賞に本学から 3 名が選ばれました。

(2014 年 1 月)

日本学術振興会育志賞は、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士後期課程学生を顕彰することで、その勉学および研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として、平成 22 年度に創設されました。

大学長経験者等の有識者により構成される選考委員会において厳正な審査が行われ、第 4 回目の受賞者 18 名が決定され、本学からも 3 名の博士後期課程学生が選ばれました。

《京都大学の受賞者》

小林 篤史 さん（アジア・アフリカ地域研究研究科 グローバル地域研究専攻）
“19 世紀の東南アジア地域経済の発展における域内交易の役割”

梁 永 さん（工学研究科 電子工学専攻）

“ビーム出射方向制御可能なフォトニック結晶レーザの研究”

飯間 麻美 さん（医学研究科 医学専攻）

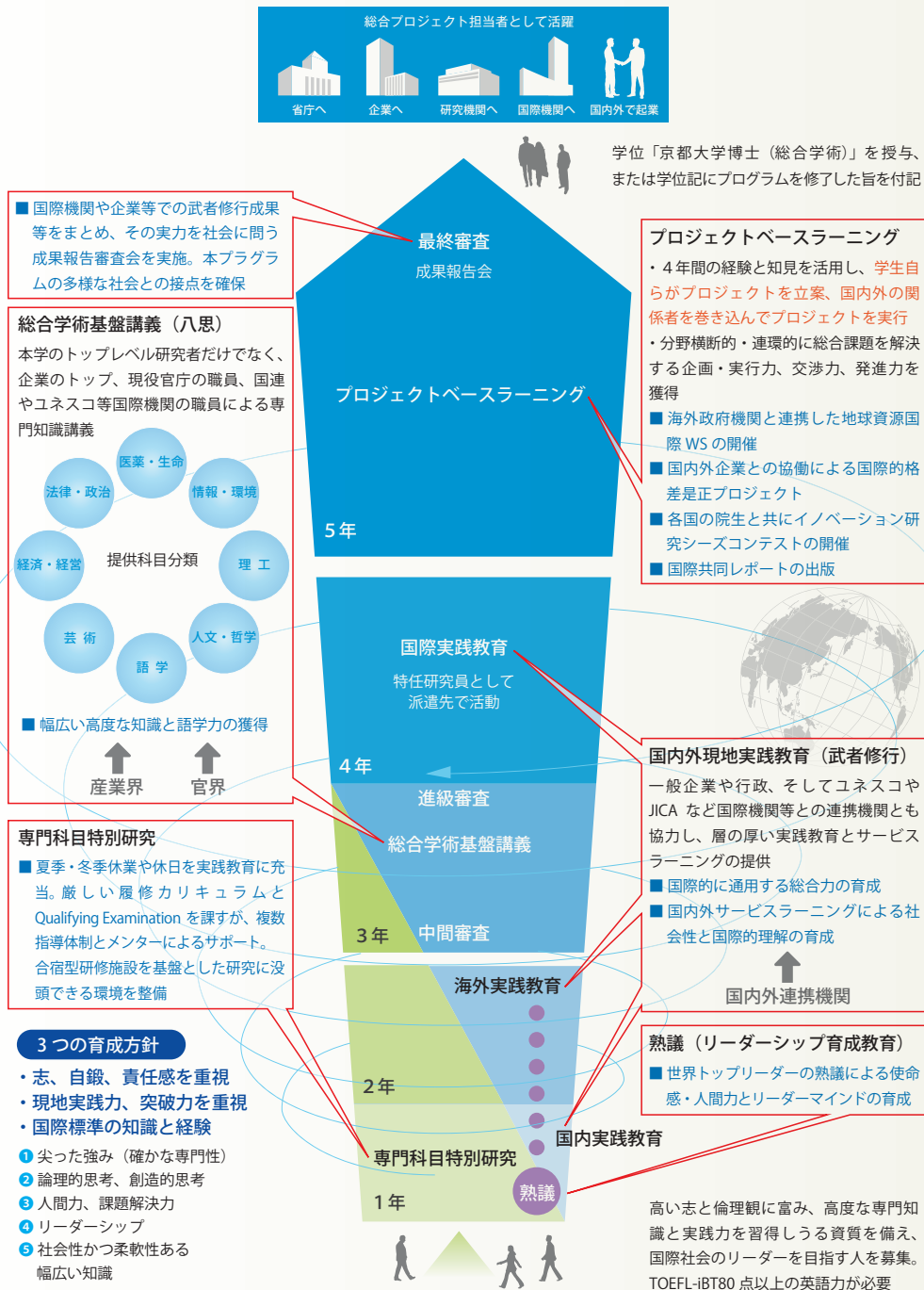
“拡散 MRI を用いた新たな非侵襲的乳癌診断法の開発”

博士課程教育リーディングプログラム

厳しいカリキュラムと愛情豊かな指導による
5年一貫リーダー育成プログラム

京都大学大学院思修館

Graduate School of Advanced Leadership Studies



- 京都大学大学院思修館 <http://www.sals.kyoto-u.ac.jp/>
- 京都大学大学院総合生存学館（思修館） TEL 075-753-5122

ここでは京都大学から採択された
5件のプログラムをご紹介します。

博士課程教育リーディングプログラムは、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたリグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業で、平成23年度からスタートした文部科学省のプログラムです。

従来の専門分野を超え、持続可能かつ生存可能な人類社会、生態系及び地球系の構築に貢献する人材を養成する

グローバル生存学大学院連携プログラム

Inter-Graduate School Program for Sustainable Development and Survivable Societies



現代の地球社会では、巨大大自然災害、突発的人為災害・事故、環境劣化・感染症などの地域環境変動、食料安全保障、といった危険事象や社会不安がますます拡大しています。本学位プログラムでは、京都大学の9研究科と3研究所が協力することで、「グローバル生存学」という新たな学際領域を開拓し、地球社会・地域社会における安全安心の担保に寄与できるグローバル人材を養成します。

グローバル生存学 大学院連携ユニット

教育学研究科、経済学研究科
理学研究科、医学研究科
工学研究科、農学研究科
アジア・アフリカ地域研究研究科
情報学研究科、地球環境学舎
防災研究所、生存圏研究所
東南アジア研究所

(極端気象・水災害・地震・火山津波)
巨大大自然災害

突発的人為災害・事故
(巨大大事故・火災・原子力)

地域環境変動・社会不安
(感染症・環境汚染・高齢社会)

食料の安全保障
(自給率・人口問題・農業政策)

自然的・社会的現象のメカニズムの理解

予知・予測に基づく予防科学、復興科学の知識と知恵

人の適応(医療、心理、ライフスタイル、リハビリ)

社会の適応(経済、公共政策、地域研究など)

災害・事故や経済危機に的確に対処し、
企業経営を安定的・持続的に行える
企業リーダー

世界を股にかけて活躍する
国際的な危機管理リーダー

食料・資源・エネルギー・
防災などの安全保障政策の
決定に指導力を発揮する
国や地域のリーダー

社会・安全システム科学分野の
アカデミック・リーダー
(一級の研究者・教育者)

新しい分野を開拓する起業家
新ビジネス(ベンチャー)リーダー

博士課程5年コース

学位研究
(所属研究科)

1年次

専門科目
コースワーク

2年次

修士論文
又は博士予備論文
研究と執筆

3年次

学位論文研究
(調査・実験・解析)

4年次

博士學位
論文執筆

京都大学博士
(各研究科)

＋
グローバル
生存学課程
修了

又は

京都大学博士
(総合学術)

専門的実力
人間的魅力
社会的俯瞰力

博士課程教育
リーディング
プログラム
「グローバル
生存学」課程

全体
ゼミ

適性確認
グローバル生存学について意識の
共有・プログラム参画への能力

リーディング科目群(必修科目、選択、各研究科提供科目)	英語による講義
学際ゼミナール(異分野複数教員による継続的融合教育)	ケース学際・融合教育の実践
フィールド実習	実際の現場で短期/長期実習を行なうことで、実践の場を経験
国際学術交流(海外武者修行)	研修生や講師として参加し、国際的教育・討論の場を経験
産学連携プロジェクト(I)、(II)	
国際共同プロジェクト	大学、行政、企業等との連携・ 国際プロジェクトなどに参加することで、 国際経験や実務力を高める
インターンシップ	

参加する
研究科より選抜

プログラム履修
(入学) 審査

Qualifying
Examination

設定したレベルに学生が到達したかどうか、
厳格かつ客観性のある評価

最終審査及び
学位認定

■平成25年度履修者

1期生 19名(教育学1、経済学2、理学1、医学3、工学5、農学1、アジア・アフリカ地域5、情報学1)

2期生 19名(教育学1、理学1、医学2、工学2、農学3、アジア・アフリカ地域7、情報学2、地球環境1)

■「グローバル生存学」課程と学位研究に専念するための経済支援

受給資格を満たす優秀な履修者に対して月額20万の奨励金(25年度28名、1期生16、2期生12)と独創的な研究活動を行うための経費として年額上限150万円の研究活動経費(25年度33名、1期生16、2期生17)を支給

問い合わせ先 博士課程教育リーディングプログラム

● グローバル生存学大学院連携プログラム <http://gss-sv01.gss.sals.kyoto-u.ac.jp/>

● 京都大学学際融合教育研究センター グローバル生存学大学院連携ユニット事務局 TEL 075-585-7111

人類未曾有の超高齢社会に対応した総合医療システムを創出する人材を育成する

充実した健康長寿社会を築く 総合医療開発リーダー育成プログラム

Training Program of Leaders for Integrated Medical System for Fruitful Healthy-Longevity Society

超高齢社会の諸問題を俯瞰して、医療と福祉の統合により地域の中で個々人の生活を支える『総合医療システム』を構築することを通じて、充実した健康長寿社会の構築に貢献し、更に後続諸外国にそのグローバルモデルを提示することのできる総合医療開発リーダーを養成します。

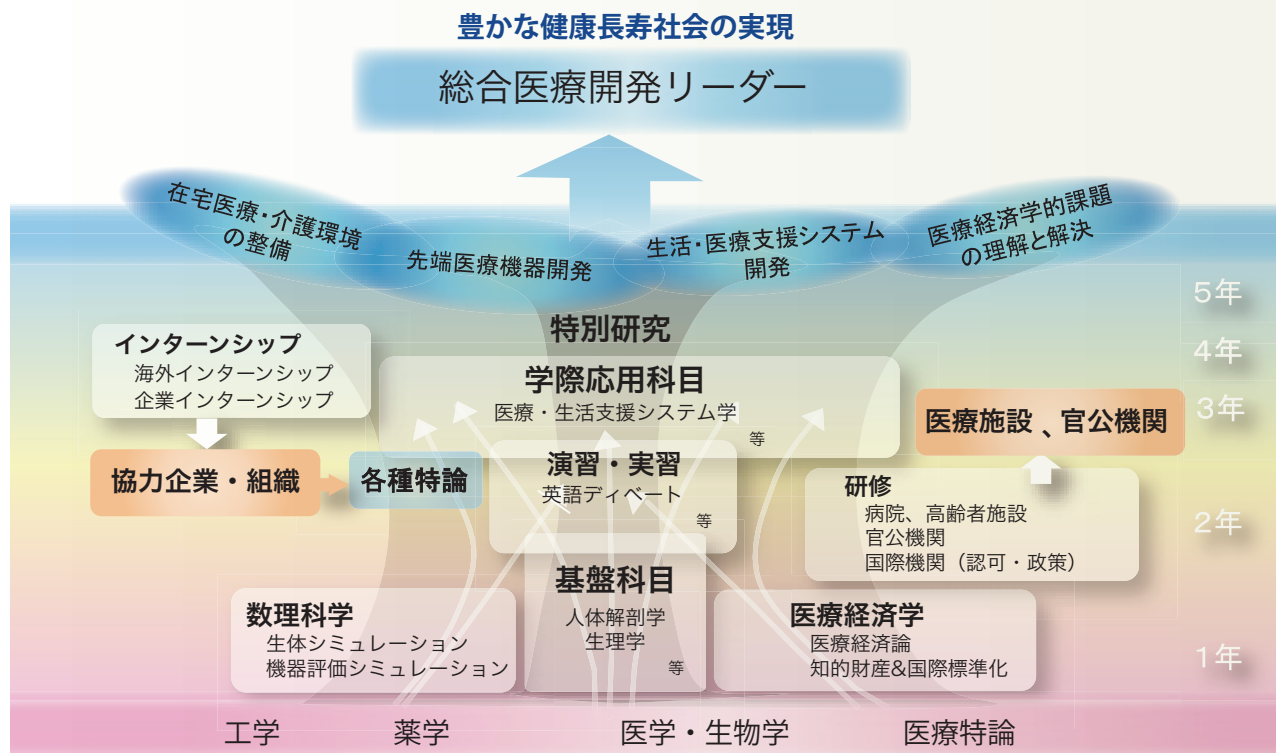
■プログラムの特色

- 履修生：選抜試験（英語、数学、面接など）により、留学生、社会人、出身大学の区別なく選抜（20名程度／年）。
- 理工学、生物系学部出身者が、医学部卒業生に匹敵する基礎医学と生体知識を習得
- 早期から企業、医療・介護支援など**現場の需要**についての理解を促す体験研修
- 英語によるディベートとネゴシエーション能力の洗練
- 産業、医療支援臨床など各界講師による、現場の状況に対応できる実践的能力の涵養
- 社会における医療ルールの理解（医療政策、医療経済、医療倫理、知財管理など）
- 企業・国内外研究機関による実践的学修とインターンシップ
- 教育・研究開発と、検証・評価・橋渡し研究の間を循環して体験することによる、多分野を俯瞰し統合する能力の涵養
- 京都大学と協力企業・組織の連携によるインキュベーションセンターで新産業と人材の育成を支援

「総合医療開発リーダー育成」プログラム履修とその出口

学 位：博士（医科学・人間健康科学・工学・薬科学）＋リーディング大学院「充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム」修了を証す。

活躍の場：次世代医療機器・支援システムの研究、高齢者に優しい医療機器の開発、健康長寿社会のための施策・立案、医療支援システムの国際標準化と日本モデルの普及



履修選抜生には履修開始の4月から奨励金を支給する。

問い合わせ先 博士課程教育リーディングプログラム

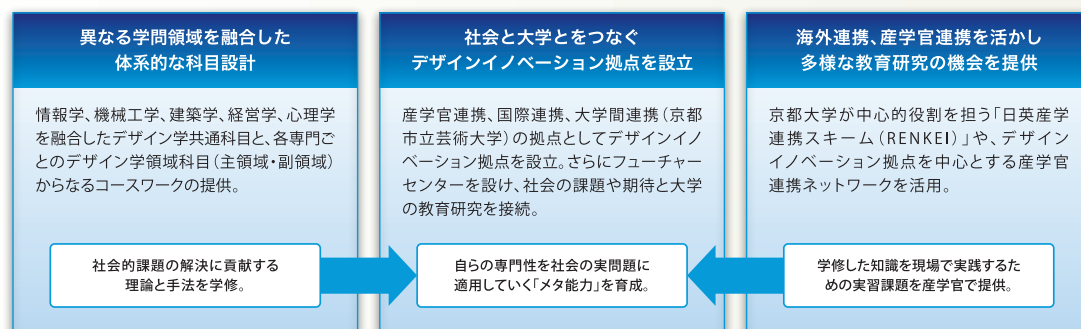
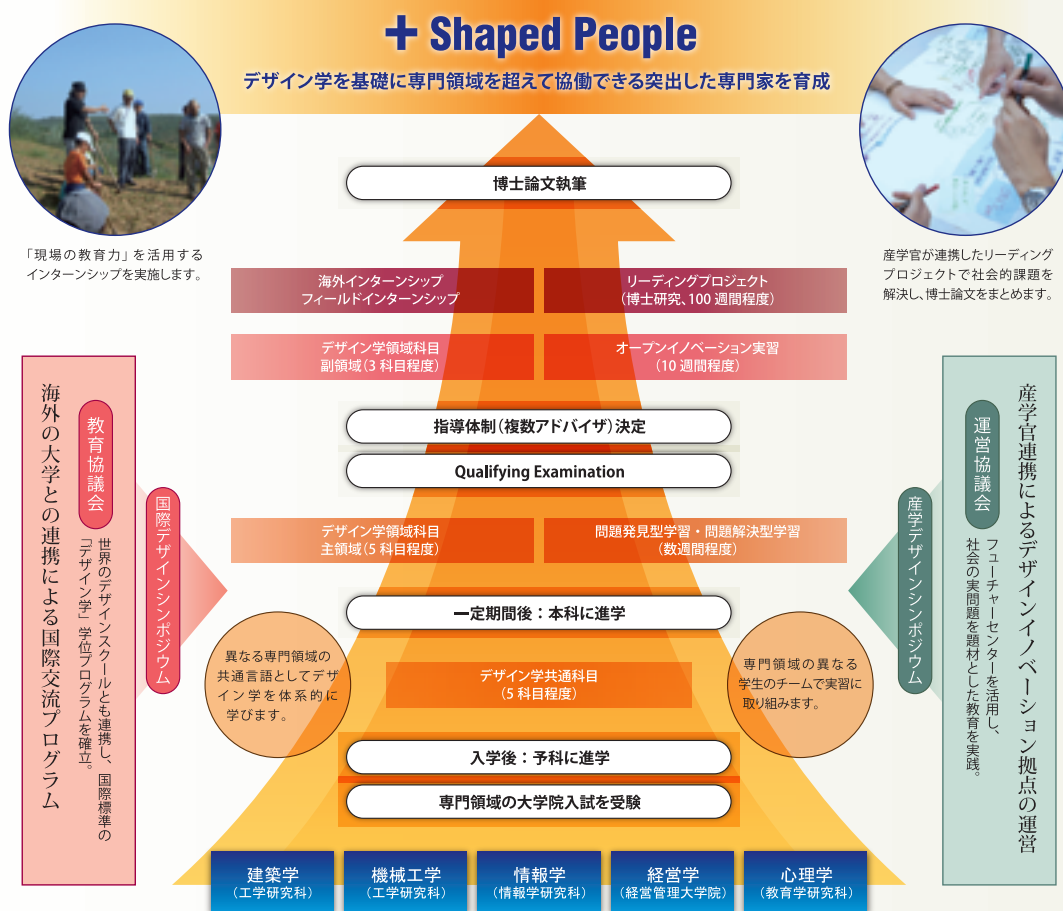
- 充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム <http://www.lims.kyoto-u.ac.jp/>
- 健康長寿社会の総合医療開発ユニット事務局 Eメール：info@lims.kyoto-u.ac.jp

産学官連携、国際連携、大学間連携による新しいリーダー育成の枠組み

京都大学デザイン学大学院 連携プログラム

Collaborative Graduate Program in Design

本プログラムでは、異なる領域の専門家の共通言語としての「デザイン学」を教育します。俯瞰力と独創性を備え、専門領域を超えて協働し、社会のシステムやアーキテクチャを変革できる突出した専門家（十字型人才：+ Shaped People）を養成します。



問い合わせ先 博士課程教育リーディングプログラム

- 京都大学デザイン学大学院連携プログラム <http://www.design.kyoto-u.ac.jp>
Eメール: contact@design.kyoto-u.ac.jp

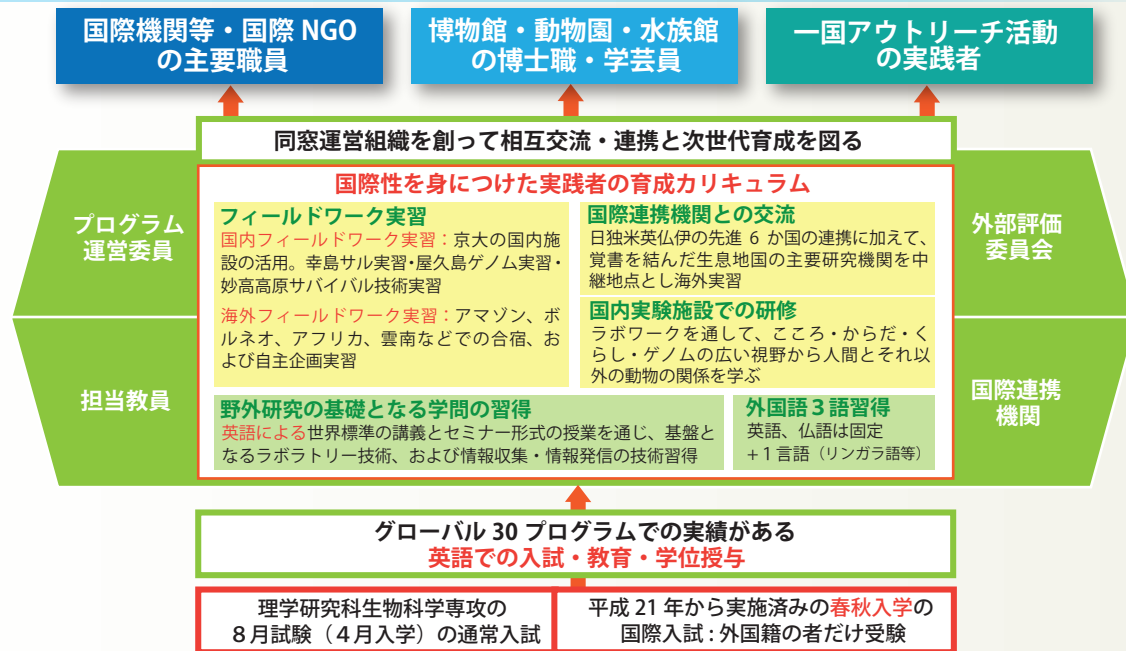
霊長類学の蓄積を活かし、学問と実践をつなぐグローバルリーダーを育成する 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院



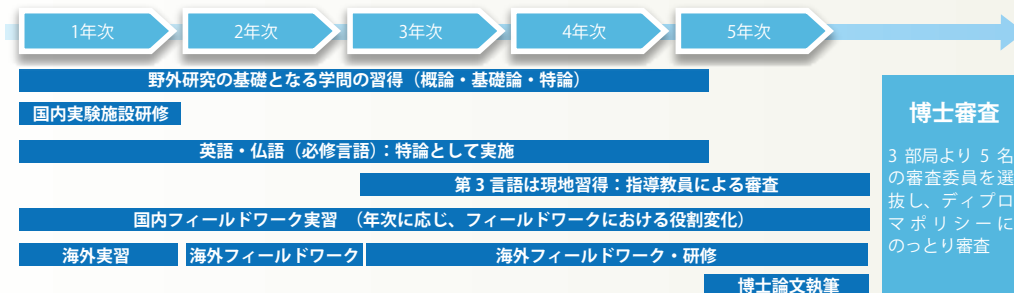
Leading Graduate Program for Primatology and Wildlife Science

京都大学の基本目標である地球社会の調和ある発展に向け、現場力、世界を相手に地球社会の未来をデザインする能力、ならびに我が国の海外展開に欠かせない俯瞰力と国際性に富むリーダーを養成します。

霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院



カリキュラムの年次ごとのフロー



本プログラムの基盤となる海外フィールドワーク拠点と連携協定の締結先

アマゾン・コンゴ・ボルネオの世界3大熱帯林(大きな赤丸)に研究教育拠点をもち

- ① ブラジル・国立アマゾン研究所
- ② ギニア・ボッソウ環境研究所
- ③ ガーナ・国立大学
- ④ ガボン・ムカラバ国立公園
- ⑤ コンゴ・ルオー保護区
- ⑥ コンゴ・カフジビエ国立公園
- ⑦ ウガンダ・カリンズ森林
- ⑧ タンザニア・マハレ・ウガラ国立公園
- ⑨ インド科学大学
- ⑩ ブータン・ブータン王立大学
- ⑪ 中国・雲南省昆明動物研究所
- ⑫ タイ・チラロンコン大学
- ⑬ マレーシア科学大学
- ⑭ マレーシアサバ大学



- ① カリフォルニア大学サンディエゴ校
- ② シカゴ・リンカーンパーク動物園
- ③ ハーバード大学
- ④ ケンブリッジ大学
- ⑤ エコルノルマルシュベリエール
- ⑥ マックスプランク進化人類研究所
- ⑦ イタリア認知科学工学研究所
- ⑧ 京都大学ヘッドクォーター

問い合わせ先 博士課程教育リーディングプログラム

● 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院 ホームページ <http://www.wildlife-science.org/>
フェイスブック <https://www.facebook.com/KU.PWS>

G30

(グローバル 30)

大学の国際化のための ネットワーク形成推進事業

<http://www.opir.kyoto-u.ac.jp/kuprofile/>



京都大学は、文部科学省が平成 21 年度から進めている「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」(G30)の拠点大学の一つとして採択されました。事業終了後の平成 26 年度以降も英語で学位が取得できるコースについては継続して行われます。

■ グローバル 30 の目的

この事業は、特に英語による授業等の実施体制の構築や、留学生受け入れに関する体制の整備、海外の大学との戦略的な国際連携の推進など、国際化拠点の形成に取り組む日本を代表する大学を支援することにより、海外からも多くの優秀な学生を日本に受け入れ、多様な人材が切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材を養成することを目的としています。

京都大学では、この国際化拠点大学として「京都大学次世代地球社会リーダー育成プログラム (Kyoto University Programs for Future International Leaders: K.U.PROFILE: ケーユープロファイル)」と題し、京都大学が持つ世界最先端の独創的な研究資源を活かし、地球社会が抱える現代的な課題に挑戦する次世代のリーダー育成のための教育を実践しています。

平成 21 年度から英語による授業等のみで学位が取得できるコース (国際コース) を、学士課程 (学部) では初めて工学部に 1 コース、また、大学院課程では 9 研究科等において修士・博士・専門職学位の各課程で 11 コース、合わせて 12 コースを開設しています。



農学研究科 農学特別コースでの授業風景

■ 開設コース一覧

学 部	工学部	地球工学科国際コース
大学院	工学研究科	環境基盤マネジメント国際コース (修士)
		都市地域開発国際コース (修士)
	農学研究科	農学特別コース (修士・博士)
	エネルギー科学研究科	国際エネルギー科学コース (修士・博士)
	情報学研究科	知能情報学専攻国際コース (修士・博士)
		社会情報学専攻国際コース (修士・博士)
		通信情報システム専攻国際コース (修士・博士)
	生命科学研究科・医学研究科	Global Frontier in Life Science (修士・博士)
	地球環境学舎	国際環境マネジメントプログラム (修士・博士)
	理学研究科 (霊長類研究所)	国際霊長類学・野生動物コース (修士・博士)
	経営管理大学院	国際プロジェクトマネジメントコース (専門職)

■ 京都大学 - ベトナム国家大学ハノイ共同事務所



VKCO 主催 ベトナム国家大学ハノイで行われた留学説明会の様子

京都大学 - ベトナム国家大学ハノイ共同事務所 (Vietnam National University, Hanoi-Kyoto University Collaboration Office (VKCO)) は、グローバル 30 の一環として、平成 22 年 9 月にベトナム・ハノイ市に開設されました。

同事務所では、ベトナムと日本の教育事情等に関する情報の収集・発信を行ったり、ベトナムからの日本留学を促進するため、ベトナム国内での日本留学説明会やセミナーの開催、また国内の高校・大学への訪問などの活動を行っています。また他にも、日本の大学およびベトナムの教育事業等に関する支援や、日本とベトナムの学術交流推進のための活動も行っています。

大学の世界展開力強化事業

大学の世界展開力強化事業は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行うアジア・米国・欧州等の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的として、文部科学省において平成23年度から開始された事業です。京都大学から以下3件のプログラムが採択されました。



強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成 ー災害復興の経験を踏まえてー

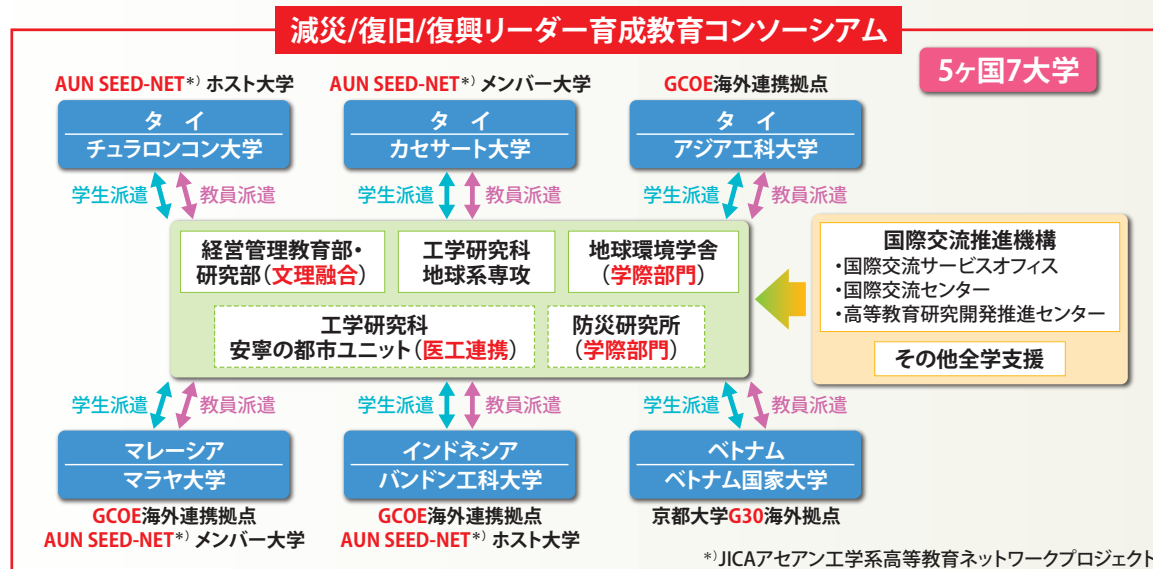
構想の目的・概要及び参画組織

◆ 学生交流プログラム

- ・コンソーシアムを形成する ASEAN 連携大学 (大学間・部局間学術交流協定締結校) との、**減災、災害復旧学、災害復興学、災害リスクマネジメント学**に関する**協働教育プログラム**の開発
- ・協働教育プログラムの実施による大学院生 (原則修士課程学生) の相互交流と留学体験の推進

◆ 教員交流プログラム

- ・日本および ASEAN 連携大学の若手研究者の相互派遣により、**それぞれ海外で教育研究を行える環境**の整備



ホームページ : <http://www.drc.ty.kyoto-u.ac.jp/>

「人間の安全保障」開発を目指した 日アセアン双方向人材育成プログラムの構築

構想の目的・概要及び参画組織

I. 目的、構成、取組

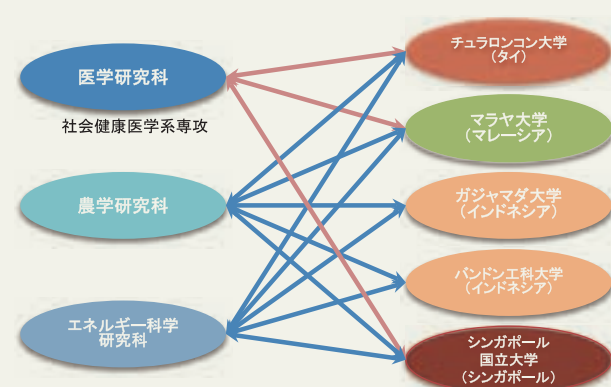


AUN: ASEAN University Network, 10 カ国 26 大学が加盟。

人間の安全保障開発連携教育ユニット: 医学研究科 (社会健康医学系専攻)、農学研究科、エネルギー科学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科 (東南アジア地域研究専攻)、エネルギー理工学研究所、東南アジア研究所、国際交流推進機構が連携し、「人間の安全保障」開発に関する教育を実施するために形成されたユニット。

ホームページ: <http://www.hsd.cpiier.kyoto-u.ac.jp/ja/index.html>

II. ダブルディグリープログラム



2年課程ダブルディグリープログラム

本学で1年間、AUN加盟大学で1年間、修学することにより、2つの修士学位が取得可能。
対象研究領域: 「パブリックヘルス」

3年課程ダブルメジャー型ダブルディグリープログラム

本学で2年間、AUN加盟大学で1年間、修学することにより、異なる2つの修士学位が取得可能。
対象研究領域: 「食糧・水資源」「環境・エネルギー」

「開かれた ASEAN+6」による日本再発見 — SEND を核とした国際連携人材育成

構想の目的・概要及び参画組織

グローバルとローカルの複眼的知性と現地感覚を備え、新たな視角から「日本とアジアを再発見」して、その課題解決への提案と実践できる能力を有したリーダーを養成する。

◆ 段階的包括的国際連携モデル

- ・ **多文化理解交流教育および短期 SEND**: 学段段階ではきっかけ、気づき、発見を主たる目的とした複言語教育、多文化理解交流教育と短期 SEND プログラムを実施
- ・ **国際連携専門教育および短期・長期 SEND とその準備教育**: 学部3・4回生から修士課程を主な対象として、学生・教員のエクスチェンジ、招聘教員による授業と単位認定などにより、グローバル水準の専門能力を身につけるコースワークを提供。長期 SEND のトレーニングとして日本語教育法、「京都で学ぶアジアと日本」科目を履修。
- ・ **国際連携研究指導および長期 SEND**: 大学院では博士論文の国際共同指導を実施すると共に、日本語指導補助、日本・アジア研究教育等を行う長期 SEND を実施。修了生は、グローバルな視野と現地感覚を備えたアジアのリーダーとして育成される。



ホームページ: <http://www.kuas.cpiier.kyoto-u.ac.jp/>

研究最前線

京都大学では、各学問分野の第一線で活躍する多くの研究者が、日々、独創的・先端的な研究に打ち込んでいます。ここでは、本学の若手研究者、大学院生による研究の一端をご紹介します。

自閉症スペクトラム障害を持つ人の心のはたらきを考える

子どもの頃から絵本や小説を読むのが好きで、将来は言語に関する仕事をしようと思って受験勉強をしました。大学に入って、言語を理解する人間の方に興味を持ち、認知心理学の研究を始めました。現在は、物語の文章を用いて、自閉症スペクトラム障害（Autism Spectrum Disorder; ASD）を持つ人の心の働きについて研究しています。ASDとは、社会性および対人コミュニケーションの困難さ（空気が読めなかったり、目を見て話すことが苦手など）、過度に強いこだわり（物事の順序にこだわり、予定の変更を受け入れることができないなど）によって診断される発達障害です。これまでの研究では、ASDを持つ人は、物語に書かれた登場人物の気持ちを理解することが難しかったり、現実の対人場面で相手に共感することが難しいと言われていました。

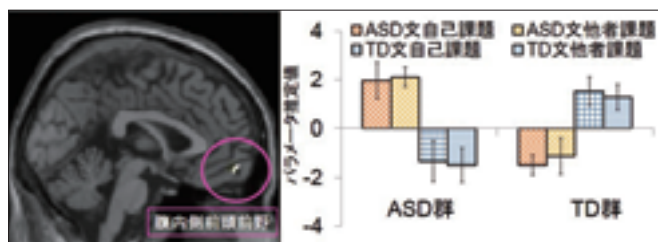
ASDを持つ人が他人のことを理解するのが難しい理由の一つとして、自分と似ていない相手を理解することが難しいことによるのではないかと考え、ASDの傾向を持った登場人物と、ASDの傾向を持たない定型発達（発達障害のことを「非定型発達」ともいうことから、定型発達とは、「発達障害ではない」という意味）の登場人物のどちらを記憶しやすいかを検討しました。その結果、ASDを持つ人は、ASDを持つ登場人物の整合的な物語をよく検索できることが明らかになりました。いっぽうで、ASDを持たない定型発達の人は、ASDの物語よりも、定型発達の物語のほうがよく検索できることもわかりました。



白眉センター
米田 英嗣
准教授

自分と似た人に対する理解のしやすさには、相手に対して共感する気持ちと関係があっても不思議ではありません。fMRI（機能的磁気共鳴画像法）という、安全に脳の活動を測定できる機械を使って、文を読んでいるときの脳のはたらきを計測しました。その結果、ASDの人たちはASDの人物について記述した文を読んだ際に、定型発達の人たちは定型発達の人物について記述した文を読んだ際に、共感に関わる脳部位が強く活動しました（図参照）。この結果から、ASDを持つ人も持たない人も、自分と似ている人のことをよく理解し、共感している可能性が示されました。

ASDについては、まだわかっていないことがたくさんあります。研究することによって、今まで信じられてきたことが、必ずしも正しくないとわかることもあります。ASDの心理学は学際的な研究分野なので、学部での科目すべてが役に立ちます。大学院では、専門性を高めるとともに、多くの分野について興味を持って勉強してください。



ASD群と定型発達(TD)群における、自分と類似した他者に対する共感を支える脳活動

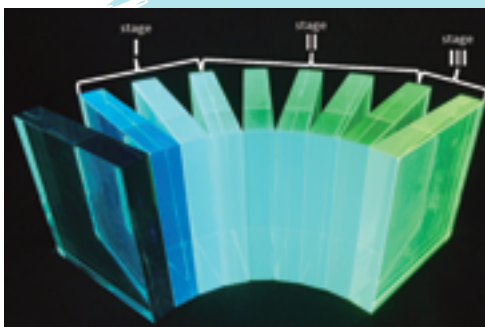
イノベーションを楽しもう

科学は技術を可能にしますが、逆に技術は新しい科学を生み出す原動力になります。イノベーションとはこの好循環の爆発だと思います。私たちが取り組んできた研究開発活動、光の色を変換するプラスチックに関する研究は、まさにこのことを体現しています。この種のプラスチックは、既に、光伝搬用ファイバーから作物栽培用フィルムまで幅広い用途で利用されています。しかし、私たちの研究は、これまで知られていなかったプラスチックの色の変換メカニズムを明らかにし、既存の知識をブレイクしました。

従来、測定対象の光の波長とその光を受ける側（検出器や植物など）の検知できる波長の差を解決するため、光の波長を変換する素材として蛍光剤を添加したプラスチックが使われてきました。その光の波長の変換メカニズムは、シンプルなものとして理解されていたため、新たな素材開発や応用におけるブレイクは停滞しがちでした。

最近の研究で、私たちは、光の波長を変換するプラスチックのメカニズムを明らかにするため、蛍光剤の濃度を広範囲（約1万倍）で変化させた高純度のプラスチックを製造し、それらの光の応答を詳しく調べました。その結果、ベース素材のプラスチックと蛍光剤間で、濃度ごとに異なる混合状態が形成されることを発見しました。またその状態により、3つに区別された段階（図）で変換された光が放たれるという、単純な蛍光剤の機能ではない、新しい光の波長変換メカニズムを明らかにしました。さらに濃度の変化により変換できる波長は、可視光領域を超えて紫外光領域まで著しく広がることを見出しました。

本研究により、利用目的に適した波長変換ができるプラスチック素材のデザインが可能になりました。今後は、本研究成果を応用し、光技術産業、電子機器産業、素材産業、アグリ事業などで使用される様々なプラスチック素材の性能向上に貢献したいと考えています。この分野のイノベーションの幕開けを共に楽しみませんか？



原子炉実験所
中村 秀仁
助教

赤ちゃんの社会的な学習メカニズムの解明に向けて

赤ちゃんを取り巻く環境は、情報に満ちあふれた複雑な世界です。そうであるにもかかわらず、赤ちゃんは驚くべき速さで、そして効率的に世界の仕組みを学習します。どのようにして、複雑な世界から有益な情報を獲得していくのでしょうか。

私は、文学研究科で発達心理学を専攻しており、赤ちゃんがどのように他者からの影響を受けて、学習を効率化しているかといったような、赤ちゃんの社会的な学習メカニズムの解明に取り組んでいます。赤ちゃんは、解明されていないことが多い、とても面白く興味深い研究対象です。実験室で赤ちゃんに音声を伴う映像刺激を見せ、それらの映像刺激に対する赤ちゃんの反応を記録、分析しています。こうした心理学に基づく客観的な科学的アプローチによって、人間の心の働きや、認知の仕組みがどのように発達するのかについて研究しています。

赤ちゃんは、生まれてすぐ、養育者などの他者からの教えによって知識を獲得していく機会を持ちます。しかし、受動的に全ての情報を吸収しているわけではありません。私たちの研究グループでは、生後1年未満の赤ちゃんであっても、他者からの情報を区別し、自身にとって馴染みがある人からの情報や、自身と同じ言語を話す集団のメンバーから与えられる情報を優先しながら、選択的に知識を獲得することを明らかにしてきました。また、赤ちゃんに対して目を合わせたり話しかけたりするといったようなコミュニケーションを介することで、赤ちゃんの学習がより促進されるという結果も、これまでの研究で得られています。

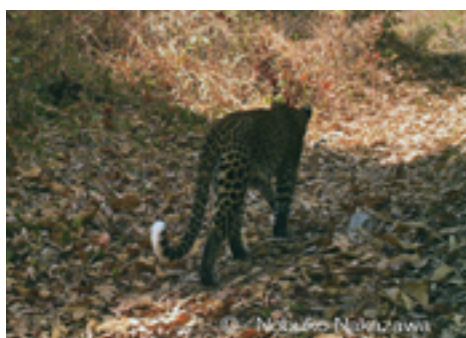
近年、科学技術の進展によって様々な手法を用いることが可能となり、赤ちゃんの豊かな認知能力が明らかにされてきています。これからも、赤ちゃんの不思議な能力を解明していくとともに、そうした研究成果を教育や養育の場へ還元していくことを目標としながら、研究を発展させていきたいと思っています。



文学研究科
行動文化学専攻
博士後期課程
奥村 優子
さん



間接的な証拠からヒョウの生態を探る



私は、ヒョウの採食生態を明らかにするために、タンザニア西部の異なる2つの環境（森林のマハレ山塊国立公園および疎開林のウガラ）においてヒョウの生態学的調査を行っています。ヒョウは中大型捕食者であるネコ科の中で、もっとも広範囲に生息しており、地域によってさまざまな形態や行動をもちます。ヒョウに関する研究の多くは、視界が良く直接観察が可能なサバンナで行われていますが、サバンナでよくヒョウに捕食されるインパラやガゼルといったレイヨウ類は森林に生息していないため、森林に生息するヒョウは他の動物を捕食しているに違いありません。しかし、ヒョウは単独で広い縄張りを持ち、森林内では視界も悪いことなどから直接観察が困難です。こうした理由もあって、森林におけるヒョウの生態はほとんど解明されていません。また、ア

フリカ・タンザニア西部の動物相は、サバンナ棲の動物と森林棲の動物の双方を含んでいます。こうした特殊な環境におけるヒョウの生態学的研究は、ヒョウがどのように多様な環境に適応しているのかについて新たな知見をもたらすと考えられますが、今まで一切行われてきませんでした。修士課程の調査では、収集した200個近いヒョウの糞のうちの1つから、チンパンジーの膝蓋骨と指骨が見つかり、ヒョウがヒガシチンパンジーを食べていることを初めて明らかにすることができました。

海外での野外研究には危険や不安がつきまといいますが、多くの方々に支えていただきながら、このような研究をできる場所は数少なく、京都大学大学院の魅力の一つではないかと思っています。



理学研究科
生物科学専攻
(野生動物
研究センター)
修士課程
仲澤 伸子
さん